

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成 27 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)		小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時		平成 27 年 11 月 25 日 (水) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開 催 場 所		小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出 席 者	委 員	<出席者：12 名> 渡辺会長・大江副会長・岡山委員・加藤委員・降旗委員・波多野委員・多田岳人委員・多田典子委員・北澤委員・勝又委員・鶴田委員・豊田委員 <欠席者：1 名>		
	事 務 局	中谷環境部長、小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・佐藤・玉井		
傍聴者の可否		可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第		1 開 会 2 報 告 平成 27 年度 可燃ごみ処理の支援状況 浅川清流環境組合ニュースの報告 3 議 題 平成 28 年度一般廃棄物処理計画の策定について (審議) 4 その他		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料		別添のとおり		
そ の 他		次回開催予定 平成 27 年 12 月 21 日 (月) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>これより平成27年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>先ず、事務局から配布資料の説明等をお願いしたい。</p>
富田減量推進係長	<p>(配布資料確認)</p>
渡辺会長	<p>前回の審議会の会議録についてご意見修正等はあるか。無いようなのでこのまま事務局に公開手続きをお願いしたい。</p> <p>では、事務局より2の報告をして頂きたい。</p>
富田減量推進係長	<p>(平成28年度一般廃棄物処理計画の差し替えについて説明)</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>(資料「平成27年度可燃ごみ処理の支援状況について」と「浅川清流環境組合ニュース」の説明)</p> <p>質問はあるか。</p>
加藤委員	<p>今後の予定のところだが、大まかな時期を説明して頂きたい。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>先ず、事業者選定は平成28年9月にはほぼ確定する予定だ。その後の組合の定例会で契約議案が上がるので、11月頃施設設計に入っていくことになると思う。詳細は組合のホームページの事業方針にスケジュール等が記載されているのでご覧頂きたい。</p>
加藤委員	<p>処理能力は約228トンになっているが、この「約」は設計の段階で変更があって、「約」が取れるのか、或いは減るのか、どう考えているのか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>設計上は端数があるという認識を持って頂きたい。今後は分かりやすくしていきたい。</p>
岡山委員	<p>この焼却施設には発電機は設置しないか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>設置する予定である。国の交付金は、炉の大きさによって高効率発電としての発電効率の基準が変わるが、対象なら2分の1補助が付く。この施設の能力であれば、17%以上の発電効率があれば、高効率発電として交付金の対象になっており、該当しているので、高効率発電施設と言える。</p>
加藤委員	<p>ふじみ衛生組合は21%くらいだ。ふじみ衛生組合の能力は288トンなので大きな差はない。もっと高く出来るのではないか。最初から17%程度にした理由を教えてください。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>炉の大きさが60トンの違いであってもこの程度の差が出てくる。最低限、国の補助基準をクリアしているが、現状、プラスチックを燃やさない施設と言うことなので発電効率的には低い。燃料をどうするかによって発電効率は変わる。</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	燃料が良ければ発熱量が多くなるので、発電量も多くなるが、効率と発熱量は別の話だ。
藤田ごみ処理施設担当課長	地元のご意見もある中で、プラスチックは汚れたプラなど最低限のもののみを燃やすという整理の中で施設を作る。その上で高効率発電も両立するぎりぎりの選択だ。
岡山委員	実際のところPFIに準じた手法なので、概要が決まって、質問を受けて、公表するのはいつか。
藤田ごみ処理施設担当課長	公表は来年2月を予定している。
岡山委員	これは一つの規格なのでこれを受けて事業者が入札し、プロポーザルを受けることになるのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	総合評価方式一般競争入札で行う予定だ。
岡山委員	基準は17%で公表するが、どの事業者はどのような能力のものを出してくるか分からないのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	事業者の提案を受けて、技術点数と入札金額を加味して、点数が一番良いところが入札決定するようなやり方を予定している。
加藤委員	建設事業費はどのくらいか。
藤田ごみ処理施設担当課長	実施方針の中で、来年2月には公表させて頂く予定。 (ごみ処理施設担当課長退席)
渡辺会長	では、平成28年度一般廃棄物処理計画の素案について、事務局に説明をお願いしたい。
富田減量推進係長	昨年度策定して頂いた一般廃棄物処理基本計画に基づいて、平成27年度一般廃棄物処理計画を踏襲する形式で作成した素案になっている。 (素案の説明)
小野ごみ対策課長	(平成28年度の施策について取り組み内容の主な変更点の説明)
渡辺会長	基本的に大幅な変更はないということで2月の審議会の結審に向けて、平成28年度の施策について審議して行きたい。 また、事務局から委員の皆さんに新しいアイデアを出して頂きたいという要望があるので、積極的に提案して頂きたい。可能な案は来年度の処理計画に盛り込み、来年度の実施が難しくても検討に取り組むことで、その後、実施に持って行くこともできるとのことだ。

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>処理量に関しては、基本計画の方針に従い、28年度も考え方は踏襲と言う形になる。</p> <p>意見を述べる前に質問がある。15頁の枝木・雑草・落ち葉の回収方法の見直しと検討と言うのは、どのように見直すのか。枝木・雑草の回収量が減っているがどのような施策をするのか。また、難再生古紙の拠点回収の拡大はどのくらいの計画を持って、27年度はどのくらいの回収量になるのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>先ず19頁と20頁をご覧頂きたい。枝木・落ち葉・雑草に関しては、落ち葉の2袋を除いては基本的に申込制で資源化している。しかし、この部分が分かりづらいという市民からの声が寄せられており、統一することを検討している。申込制ではなく戸別収集にするなど検討していく予定だ。いつから実施するかに関しては、現時点では未定だ。</p> <p>次に難再生古紙だが、昨年度は7月から開始して1.4トンだったが、9月末の段階で2.2トンと若干増えている。年度末までにはある程度の量になると考えている。また、27年度は回収場所として第二庁舎の入り口と保健センターに設置した。28年度は本庁舎に設置することを検討している。最大60トンの回収を見込んでいたが、拠点回収なので目標には至っていない。が、難再生古紙というものに対する理解をいただけるよう周知しながら、少しずつであったとしても拠点回収を継続して、ごみの資源化を進めていきたい。</p>
<p>勝又委員</p>	<p>枝木だが、直径が15センチ以内となっているが、15センチ以上だと粗大ごみになるのか。</p>
<p>穠山清掃係長</p>	<p>そうなる。基本的には15センチ未満に切って頂くことになる。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>丸太は業者に剪定してもらうことが多いのではないかと。</p>
<p>勝又委員</p>	<p>電動のこぎりで切っている人も結構多い。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>ある程度以上の大きさの樹木を、自身で切る人は少ないのではないかと 言う認識のもとにこの形を取っている。</p>
<p>勝又委員</p>	<p>小金井は大きな庭を持っている人が多いので検討して頂きたい。</p>
<p>穠山清掃係長</p>	<p>今までそのような意見を頂いたことがなかったが検討したい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>資源化にあたり、引き取る業者さんのほうで15センチ以内と言う指定があつて、こうなっているのではないのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>そうではない。</p>

審議過程（主な発言等）

多田岳人委員	業者のほうからこういうものは駄目だと言われているのは、ないのか。約束事があれば教えて頂きたい。
穂山清掃係長	詳細な約束事はない。しかし、大きいとパッカー車に入らないため、15センチ以内にさせて頂いている。
多田岳人委員	ならばパッカー車ではなく、平積み車にしてはどうか。
小野ごみ対策課長	平ボディでも集められるが、車を業者さんに用意しても貰わないといけないのでコストの関係もある。また、需要の点から考えても少ないという判断でこの大きさに設定している。今のご意見は検討するが、現時点ではこのままやらせて頂きたい。
岡山委員	11頁の計画だが、不燃系ごみの埋め立てのところ、日の出に持って行くのがゼロになったという説明があったが、何故ゼロになるのか。
小野ごみ対策課長	これまでは、資源化できない不燃系ごみを二ツ塚処分場で埋め立てをしていたが、中間処理場で資源化出来ないものをより精査選別をして民間の処理施設へ持って行って、ケミカルリサイクルすることにした。
岡山委員	施策のところだが、小金井公園などのイベントで出るごみは誰が集めてどこに計上されているのか。
小野ごみ対策課長	イベントの主催者が集めて事業系のごみとして出して頂くので市は収集しない。基本にごみは持って帰って頂くことを周知している。
波多野委員	更に、最近では小金井の商工会や観光協会がやっているのだが、買ったところへ持って行くというのが多くなってきている。リユース食器も使っているが、使える素材を限定して、買ったお店に持って戻り、売った人が持って帰るということになっている。
岡山委員	では、基本的には市民まつりや科学の祭典は、市が主催しているのではないのか。
小野ごみ対策課長	市民まつりは共催だが、ごみ箱は設置していない。基本はごみを持って帰って貰い、お店で買ったものは買ったところへ戻して貰うという形でごみを出さない対策を採っている。
岡山委員	市が主催でイベントを開いても、ごみは出ていないということか。
小野ごみ対策課長	そうだ。ごみを持って帰った人が、市が指定する焼却施設へ持って行っている場合は市のごみにカウントしているが、その他については独自に民間の処理業者と契約しているので、市のごみとしてはカウントしていない。

審議過程（主な発言等）

加藤委員	一部はカウントされているが、一部はカウントされていないということか。
小野ごみ対策課長	その可能性はあるが、内容までは把握していない。
波多野委員	小金井は小さいお店が多いので事業系の袋で出している状況もある。
岡山委員	今年度から小型家電法の施行をしたということだが、市内に小型家電回収ボックスを設置しないのか。
小野ごみ対策課長	一昨年小型家電について検討した中で、組成分析して小型家電が出る割合を見た。ボックスを置いても嵩があるものもあり、すぐ一杯になる可能性が高く、本来取り出したいレアメタル等以外のものが入る可能性もある。中間処理場で不燃物の中からピックアップするほうが効率良いだろうと言う判断をした。
岡山委員	出している人は不燃ごみだと思って出している。実は資源として抜き取っていることを知らない。他市の例だが、ラジオや携帯電話を親子で壊してみようというイベントを行っているところがある。非常に盛り上がる。小型家電法に参加していることをPRすることを目的とするのであれば、このようなイベントも良いのではないか。
多田岳人委員	例えば家電量販店や30店舗ほどある市内の電気屋に小型家電の拠点ボックスを置いて貰うことは考えられないのか。ボックスが一杯になればごみ対策課に取りに来て貰う。小型家電を持って行くついでに何か買うとなれば相乗効果が出るのではないか。
渡辺会長	回収システムをどうやって作るのか、今のところ何もないので難しいかも知れないが、検討に値するのではないかと思う。
小野ごみ対策課長	直ぐにはお答え出来ないので、審議会として今のご意見をまとめて頂ければ持ち帰って検討したい。
加藤委員	3頁と11頁だが、燃やすごみの焼却量に関して平成27年度の推計値からは、計画が達成出来ないことが分かる。今年度が増える傾向があるにも係らず、来年度は300トンも減らす計画だが、計画と実績が乖離している。また、地域に設置している生ごみ処理機を撤去してしまうようだが、その点についての見解をお聞きしたい。
小野ごみ対策課長	3頁と11頁の表について説明したい。基本計画でもこの部分を議論して頂いたが、可燃系不燃系のごみに関しては目標値を一人一日当たりのごみの排出量を設定している関係上、これに人口を掛けて更に365日を掛けたものがここに載っている数字だ。資源物に関しては目標設定を立てていないので、基本計画で示した推計量から不適物を取り除いた数字を掲載

審議過程（主な発言等）

	<p>している。可燃ごみの12,362トンについては、目標から算出している ので300トン程度の乖離がある。人口も増加しているし、最近分別の不 徹底も目立って来ているので、その辺りを加味しながら今後処理目標に向 けて努力して行きたい。</p> <p>また、地域に設置されている大型生ごみ処理機だが、貫井南団地に設置 されていたものは故障したため、地域の方々と相談して撤去した。グリー ンタウンについては、借り上げて設置しているが今年度末に契約が切れ る。引き続き使うという選択肢もあったが、耐用年数を超えているため、 故障の可能性もある。地域の方々と相談して現時点では撤去する予定だ。 12月初旬に説明会を持って理解して頂くつもりだ。何故新しい機械を入 れないのかということだが、今のところ実績はゼロだが、大型生ごみ処理 機の補助金の要綱を作っているところだ。民間の施設なので基本的には補 助金を使って設置して頂くようお願いしている。市としては今後、民間 の施設に公費を出して大型生ごみ処理機を設置する考えは持っていない。</p> <p>未だ検討の段階ではあるが、貫井南団地とグリーンタウンについては、 今まで生ごみを投入して頂いた方々は生ごみ分別が出来ていると考えら れるし、きれいな生ごみを出しているという実績もあるので、以前からの 懸案事項である、生ごみのモデル地区として設定して生ごみとして収集す ることができればと考え、研究していきたい。</p>
加藤委員	<p>平成19年頃から続けてきて、生ごみを資源化することが定着化しつづ ある。それが止められてしまうと生ごみが可燃ごみになって広域支援の対 象になる。生ごみとして収集するほうが合理的だと思うが、グリーンタウ ンでは補助金を使って設置ならばやらないという人が多い。大型生ごみ処 理機補助金の要綱が今のままではこれからも実績はゼロだと思う。経費の 合理性も勘案しながら、是非、火が途絶えることの無いようにして頂きたい。</p>
渡辺会長	<p>基本的な枠組みとしては、一人一日の排出量で見ている合計で見れば、 目標以上に減っているのが現状だ。プラスチックごみが減っているのに対 して燃やすごみが増えているところを見ると、プラスチックの分別をどう 徹底するかが鍵かと思う。</p>
加藤委員	<p>一人一日当たりというのもごみ減量の指標になるかも知れないが、広域 支援を受けるに当たっては、絶対量が増えてはいけないと思う。</p>
岡山委員	<p>平成28年度処理計画量についてだが、可燃系ごみの小計は26年が1 2,763トン、今年は推計値だが12,844トン。しかし、来年度は 12,546トンと300トン近く減っている。支援を受けている最大搬 入上限が13,600トン。来年度も恐らく変わらないだろう。その上限 からすれば大きく下回っているが、これだけしか出ないとか、これだけし か回収しないだろうと捉えられる懸念があるが、大丈夫なのか。昨年より 少ない分しか焼却しないと考えている根拠を教えて頂きたい。また、全体 としては、今年度推計値に対して、合計値で245トンくらいプラスにな</p>

審議過程（主な発言等）

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>っているが、項目別に見ると資源物が462トン程多く見積もられている。平成26年の資源物が9,426トン、今年度推計値が9,271トン、150トンくらい減っている。ところが28年度は回復して9,733トンになっている。可燃物と資源物の数字的根拠が分からない。どのような施策を持って可燃ごみをこんなに減らせるのか。15頁の大型生ごみの処理も良いが、家庭の生ごみ処理機の購入補助率が高いので施策としては満点を付けられると思う。その上で更に、生ごみをどこかに持って行くのではなく、自家処理して貰うという施策を加えてみてはどうか。1%の世帯でも入ると300トンくらいは効いてくるのではないかと。</p> <p>先程、庁舎の4階で生ごみ教室の案内を目にしたが、気になる点がある。生ごみは堆肥にしかならず、肥料にはならない。肥料と書いてしまうことに疑問がある。また、いつも平日の昼間に開かれているので働いている人は参加出来ない。16頁の環境教育になると思うが、出来れば地元のボランティアに委託する形でよいと思うので、土日や夜間の講座を多く開く方がより教育効果は高まるのではないかと。</p> <p>学校教育の中で小学校4年生は必ずごみ処理或いは排水処理施設の見学というのがあるが、小金井市はどこへ行っているのか。</p> <p>中間処理場と缶・ペットの処理施設だ。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>家庭生ごみ処理機の購入補助の問題だが、非常事態宣言の翌年は1,800件を超える申請があった。ここ数年は計画補助として350台を交付するということだが300台を超えることはない。市報などで広報するだけでは350台の目標は達成出来ないと思う。生ごみ処理機の使用を途中で止めたり、戸惑う人もいるので、サポーターやアドバイザー制度が必要なのではないかと。自家処理にしてもアドバイザーが必要だ。このまま啓発キャンペーンだけではこれ以上増えないと思う。生ごみ処理機についても取り組みを変える必要があるのではないかと。ごみ対策課の見解があれば、お訊きしたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>生ごみの有効利用の調査・研究は、施策にも掲示されているので、そこで取り組むことでも良いと思う。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>購入費補助はこのまま続ければ良いと思う。しかし、多くの人々が止めるのは使いきれないからだ。生ごみの堆肥をどう使っていくかまで併せた教育プログラムを拡充すると、可燃ごみが300トンくらい減るところに繋がると思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>堆肥として使わなくてもごみは減るのだから、最終的には出来たものはごみとして出して貰っても良いので、家で段ボールコンポストをやるということでも良いと思う。平成28年度計画量は、施策から算出した数値ではなく、目標設定を基にしている。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>数字だけを見るとプラスチックごみが減って燃やすごみが増えている</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ので、プラスマイナス同じ程度であることからプラから可燃に移動したかに見えるが、組成分析をしてみないと断言は出来ないと思う。必ずしもプラスチックごみに入れるべき物を燃やすごみに入れているとは考えにくい。小金井市では、プラスチックごみと燃やさないごみを入れる袋は同じなので、分別がしっかりされていないかも知れない。確かに単身者の集合住宅ではごみの分別が悪い。できれば西東京市がやっているように部屋別収集をして、誰がごみを出したか分かるようにしないと、一般的な分別キャンペーンでは分別による減量は出来ないのではないかと思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>小金井市は転出転入が非常に多い。23区は、資源化できないものは燃やすと言う方針なので、そこから移ってきた人は、プラスチックは燃やすごみと言う認識があるのではないか。入ってきた人に小金井市の方式がきちんと伝わっていないから、徹底されないのではないのか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>年間8,000人から9,000人の転出入があるので、その人たちへの対策が必要だ。</p>
<p>降旗委員</p>	<p>拠点回収などで色つきの食品トレイはどういう扱いをしているのか。</p>
<p>北澤委員</p>	<p>これまでに何度も言ったが、この数字は施策に基づく数字ではない。初めに目標ありきで、それに人口を掛けて出しただけだ。施策との繋がりはない。10年計画で出てきた施策が全部載っている。そうではなくて、28年度はこの中からこれだけに集中しようと言うやり方のほうが良いと思う。そうでなければ、出来たのか出来なかったのか分からない評価になってしまう。施策と数字が繋がっていなければ、減らしても数字には影響しない。予算的にも人的にも全部やるのは不可能ではないか。28年度はこれに特化してやるなど、施策を精査して減らしたほうが評価もし易いし、見栄えも良いのではないか。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>これは計画量ではなく目標量だ。目標量と実績値を見ると、可燃系ごみは増えているし、不燃系ごみは若干減っている。資源物は目標に対して少なくなっている。可燃系ごみの計画量がどんどん少なくなっているが大丈夫なのか。これを実現しようとするのであれば、積極的に施策をてこ入れして発生抑制しようとしたら生ごみに集中シフトして少し手厚い施策を入れてみるのも一案ではないかと思う。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>北澤委員のご発言に関してだが、そのような方式を採ってきた理由は、小金井市は焼却出来ない状況が長く続いて来たので、近隣他市への配慮としても、目標と言うことで、実際の施策を積み上げるよりも、姿勢を示すことを前提に前書きにも書いてやって来た。それを直ちに転換できないのは当然だ。施策全体のことと言えば、生ごみについて毎年硬直的な議論で終わっているのは、一つの転機を迎えた時期としては、問題ありと思う。新可燃ごみ処理施設が31年に完成して大きく変わっていくところへ向けて、小委員会などを作って、生ごみ処理の長期計画をスタートさせてい</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>くことが大事だと思う。ヨーロッパでは、生ごみの堆肥化よりガス化のほうが、コスト的にも遥かに良いらしいので、そういったことも含めて長期的なところへ向けた検討がないと、一段落超えようとしている時にもったいない気がする。1年毎も大切だが、これまで1年1年に囚われ過ぎて来た。</p> <p>行く末が見えてきた今、検討して頂きたい。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>今のことは大変重要だと思う。生ごみについては、調査は始まったところだと思う。生ごみ処理機を増やすことでは限界に来ているので、もっと根本的な減量施策の検討が必要だと思う。私は、可燃ごみの減量と言う点で、紙おむつの資源化に注目して調査をしている。紙おむつについては近隣市でも10%前後、小金井市でもほぼそれに近い形にある。今後、更に増えるだろう。可燃ごみの10%となると1,200トンくらいになるし、5%にしても600トンになる。焼却するのではなく、ペレット化や固形燃料化したり、それらも含めて方法を検討すべきだ。</p>
<p>多田岳人委員</p>	<p>実際には、26年度の推定処理量が12,521トンのところを26年度の実績は12,577トンに増えている。27年度の計画処理量が12,470トンが27年度の推定処理量になると12,668トンに増えている。26年の4月から9月までの可燃ごみが6,352.4トンに対して、27年の4月から9月までの実績が6,398.3トンに増えている。これを見ると今後、可燃ごみは減らないのではないかと思う。切り札としては、難再生古紙や紙おむつの資源化、枝木・落ち葉は申し込まなくても指定日に出しておけば収集して資源化するなど、徹底してやっていかないと今後無理ではないかと思う。以前、ごみゼロ化推進会議で市の担当者に可燃ごみの収集を週2回から1回に減らしてはどうかと提案したら難しいと言われた。週2回のうち1回は可燃ごみと紙おむつ、紙おむつは資源化する。もう1回は、生ごみと廃油と枝木・落ち葉の収集日にする。生ごみも紙おむつも枝木・落ち葉も全部資源化する。例えば、生ごみと枝木・落ち葉を混合で収集して、堆肥の業者に売るなどすれば少しは減るのではないかと思うが、いかがか。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>今日は施策を見て欲しいと言うことだったので、生ごみの有効利用に向けた研究、枝木・落ち葉の見直しの検討、この次に可燃ごみの抜本的な発生抑制或いは減量に対する方法の調査・検討を加えてはいかがか。小型家電の部分でも回収方法の検討も行っても良いのではないか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>現在の施策でも、本当に徹底できれば、十分な効果はあるはずだが、平行して新しい取り組みもやらなくてはならないということだろう。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>取り敢えず審議会として要請できることとして事務局に3市の分別収集体制の精査を提出して貰いたい。例えば、生ごみはどうなっているのか等知らないと協議に時間が掛かってしまう。3市の状況を調べて貰って、ここへ出して貰えば、来年から検討を始めることが出来る。28年度に向</p>

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>けて検討しなければならないことをスタートさせることが大事だ。</p> <p>3市共同に当たって、分別収集方法についてどこまで検討が進んでいるのか、ごみ対策課にお訊ねしたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>今、減量推進担当課長レベルで意見交換会を持っている。例えば燃やすごみの品目についてもある程度統一性を持たなければならない。日野市では燃やしているものが小金井市では不燃ごみになっているとか、その逆だったりするものについては、統一感を持って行かなければならない。しかし、其々の市が行っているごみの資源化の施策についての統一は難しい。統一出来るものについては統一して行こうということになっているが、具体的なことは未だ決まっていない。</p> <p>今日、色々なご意見を頂いているが、次の審議会までに我々の方で検討出来るものと出来ないものがあることをご理解頂きたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>次の審議会までに検討出来そうなものを示して頂ければと思うのだが。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>お示し出来るような検討はするが、全ては難しい。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>16頁の人づくり街づくりは重要だと思う。普及啓発に大きく関わって来る。ごみを分別したり出すのは市民なので、市民との協働と言うのは大変重要だ。他の自治体では、NPOを何らか支援して、職員がカバー出来ないところを市民にやって貰っているところがある。小金井市では、ごみゼロ化推進委員や相談委員を除いて3Rに関するNPOなどの団体はどの位あるのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>全てを把握していないが、ごみの施策についてNPOを立ち上げて協力したいという市民の声は頂いている。私が着任して以降、ごみに特化したNPOは立ち上がっていない。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>NPOではないが、任意で3つくらいある。生ごみを肥料化して土に戻す会、元気野菜の会、生ごみの処理を考える市民協議会などの市民団体があって、20から30人で活動をしている。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>市民団体では跡継ぎがいなくなって来る場合が多いので、持続出来るように市がバックアップしてくれると良い関係になると思う。パートナーシップの強化があっても良いのではないか。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>浅川清流環境組合の説明があった時に、発電するのかわからないのかと言う話があった。そう思わざるを得ないくらい、このごみ処理計画の中に、環境や、エネルギーとか広い視点が何も入って来ていない。ここで扱う必要はないが、ごみ処理施設としてCO₂とエネルギーの問題はダイレクトに環境計画に関わっている筈なのに、ごみ処理基本計画の中に何も出て来なかったことが問題だ。先程検討しようと言った時に視野を広げないとごみ</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>問題が部分最適に囚われる。ここだけでやっていたのが、一寸視野を広げた時に効率の悪いものがあるとか、全体の環境やCO₂のところに負荷をかけているとか、まもなく3市の中で目に見える形に出て来る。だからこそ、3市の共同と言うときに、そういうことも含めた取組みをやっていかなければならない。違いも含めて情報を出してくれないと検討が進まないの、調査に着手して審議会へ事実関係の情報を出すことをすぐ始めて欲しい。そうすると視野が広がらざるを得ない。武蔵野市でも来年の秋には運転が始まる。以前関わったことがあるのだが、エネルギーのこともやっていた。処理施設になったときに白煙防止をどうするのかを言うのが出て来るのだが、一部事務組合だけに一寸上のところの検討になりかねない。それを常にフィードバックしながら市民視点のところを入れていかないと後で3市ともに、身近に立地されている地域と、境界を挟んだだけで市域が近いのに安心してしまっている地域と、意識が全く違うということになりかねない。ふじみ衛生組合のときもそうだった。情報開示と透明性を高めていくことは審議会の役割でもあるので、常に要請しながら、事務局の方はそれを出す姿勢を貫いて行って頂きたい。</p> <p>では、次回は施策の目鼻立ちを何とかしたい、あるいは追加したいものの具体的検討をし、可燃ごみをどう減らすか、何を優先するかを考えていくことになろうかと思う。今日の審議はこれで終わりたい。次回は12月21日月曜日、第二庁舎の8階を予定している。</p>
------	---

以上